

2 今後の方向性

§ 1 自立のむらづくりの重点施策

王滝村長期振興計画及び王滝村過疎地域自立促進計画で掲げている基本理念を踏まえて、自立のむらづくりを先導する8項目「重点プラン」(皆でねっくじ「ずく」を出して行動すること)を掲げます。

これからの村づくりに向け、「王滝村むらづくり委員会」をとおして、住民の皆様から多くの提案、提言、アイデアを寄せていただきました。村づくり委員会の検討経過を尊重し、王滝村独自の特色ある施策を展開していきます。また、行政と地域が一体となって取組めるよう地域の核となり得る実働部隊としての組織づくりを行なっていきます。

(1) 産業の改革に向けて

ワイラ畑やウラ田んぼ どんねかせまいか

- 産業活性化プラン

農業振興として、遊休耕地の有効活用、「王滝かぶ」をはじめとする特産品のブランド化を推進し、自家消費中心の農業からの転換を図ります。

牧尾ダムを通じて交流のある下流域の受益市町の人々との交流を活発に行い、農林作業体験を通して農作物を育成する楽しみや森林整備の大切さを多くの人に知ってもらい、農山村と都市との交流による共生の道を図って行きます。

王滝のいえとこ もっと宣伝せまいか

観光再生プラン

村の主要産業である観光については、今後も大きな期待がされております。村観光総合事務所及び村内の観光事業者との連携を図り、新たな観光資源の発掘と、「おもてなしの心」を大切にしたい観光の再生を図ります。既存のスキー場経営も村直営から指定管理者制度の導入により上下分離方式での民間経営に切り替わる中で、地域(観光関係業者・行政・住民)が一体となった取組み活動、招致対策を展開し顧客満足度を地域全体で高めて行く必要があります。グリーンシーズンの観光産業開拓にも力を入れ、いち早い「お客さんの視点にたった考え方」民間的発想でそれでいて訪れる人たちへやすらぎと潤いを与え自然を満喫してもらえるような観光産業を目指します。

(2) 快適で美しいふるさとづくり

“協働”て何だりゃ？役場がなにか出来んで、ウラがやるだか？

- 村民と行政の協働プラン

基本方針（ 1 § 1 ）のとおり

（ 3 ）一人ひとりが輝くために

役場も村民も変わらにゃいかん

- 豊かな人づくりプラン

「ずくだそ」がこれからのむらづくりのキーワードです。村民が行政の主役であることに以前と変わりはありませんが、単に行政サービスを受ける側から、行政サービスを村民参加で検討し、村民自ら行政に参画しなければこれからの村づくりは成り立ちません。そのための環境整備による土壌気運づくり、人材育成の推進を図ります。

子ども減って さみしんなぁ

- 子育て支援プラン

「子どもたちは村の貴重な財産である」を基本理念とします。単なる財政出動によらない「子どもの成長」と「子育て」を地域で支えあう地域社会の再構築や、安心して子どもを生き育てる環境づくりを進めます。幼児・小・中・高生の子供たちと地域の連携を密にした事業の展開が図れるよう中央公民館施設の役割機能を高め、地域住民と子供たちの接点を果たして行けるよう開かれた場にして行きます。

（ 4 ）人と情報のネットワークづくり

診療所にも福島にも気軽に行けるといえんなぁ

- 住民の足プラン

公共交通については、過疎地域においては利用者の減少とは裏腹に無くてはならない交通手段として重要な役割を果たしており、今後ますますその役割は重要となってきます。地域住民に提供すべきシビルミニマム（＝生活の最低基準）は確保しながら、できるだけ無駄を省いて効果的、効率的な交通手段の確保に努めます。

「子育て支援プラン」との整合性をとりながら、財政出動のみによらない施策の展開を図ります。

（ 5 ）ゆとりとやすらぎの里を目指して

「王滝の衆はマメだんなぁ」て そわれるよにならまいよ

- 健康の村づくりプラン

少子高齢化の進行は、高齢人口を支える若年層に将来大きな負担を強いることを意味します。王滝村だけでなく、全国的にも増え続ける医療費などの社会保障費が大きな課題となっています。

今後は、いつまでも健康で、より良く、より充実した「健康寿命」を延ばすために、日頃から「自分の健康は自分で守る」という村民一人ひとりの意識と実践、それに対する行政の支援が最も重要になります。

疾病構造の変化に対応した、早期発見・早期治療の充実に加え、健康増進・疾病予防を行う「一次予防」の強化が必要となります。事務事業の再構築では「受益者負担の原則」に基づき健康診断料自己負担金の増額等を打ち出していますが、各種健康診断、健康教室等は多くの村民の皆様が受診、参加できるよう体制整備を進めます。

困った人は皆で支えまえか

- 福祉の村づくりプラン

健康づくりプラン同様、福祉事業は重要課題です。従前のような必要以上の手厚い福祉施策を全面的に見直したシビルミニマムの確保に努めます。その中で高齢の皆さんや、心身に障がいのある皆さんが安心して暮らせる地域社会の構築を目指します。お互いに地域を支えあうシステムの構築を金銭面でのサポートではなくマンパワーにより解消を図って行けるような地域ボランティアの自発的育成環境を整えて行きます。

§ 2 行財政改革

1) 行政改革プロジェクト

単なるコスト削減による縮み志向の行財政改革でなく、将来にわたって活力ある村づくりのための行政改革を推進します。実施にあたっては、村で推し進めてきた「第三次王滝村行政改革大綱」の骨子を中心に今国が進めている集中改革プランへのそっくり受け継ぎ整合性を図りつつ別途策定する「王滝村再生計画」に基づき、段階的に数値目標を設け、「出来ることから即実行」を基本として行政改革に取り組みます。

2) 行政評価プロジェクト

地方分権が進展し、村が自らの責任により方向性を決定し、地域の特性を活かした村づくりが求められ、多様化するニーズに的確に対応した行政を進めていくことが重要なテーマとなっています。行政の持つ情報を村民の皆様にも明らかにして、透明性の高い行政が必要とされており、これらを実現する手段として「行政評価」が注目されています。

「行政評価」とは、王滝村が真に自立していく上で、予算の獲得とその執行はそれ自体が目的でなく、行政目標(=自立プラン)を達成するための手段であるという点に着目し、成果を指標等によって数値化し、行政目標の達成のためにどれだけ有効であるか、またコ

ストは効率的であるかを客観的に評価するものです。

行政評価システム導入にあたり、その目的や推進体制、活用方法などについて基本的な考え方を示し、本格導入を目指します。地域住民から見て透明性が高く、解かりやすい行政評価を行ってゆくための地域住民とのコンセンサスを経て取組んでいきます。

3) 財政再建プロジェクト

今後の村づくりや行財政運営はどうあるべきかを考えるに当っては、村の財政が今後どのように推移していくかについて、予測をしておく必要があります。

村では以前から「自立した場合の財政シミュレーション」を策定し、村民の皆様へお示ししてきました。その中では平成19年度決算時点で「財政再建団体」の要件を満たし、以降財政赤字が増加するものでした。今回そのシミュレーションを基として、これまでにお示した「重点プラン」及び「行財政改革プロジェクト」を踏まえて、平成18年度から10年間で収支バランスを正常化する財政シミュレーションを策定しました。その財政シミュレーションをもとにきちっとした健全化財政計画を取りまとめ、それに基づく行財政運営を実施して行きます。

今後は財源確保のための新たな「増収対策」と「税の公平性の原則」を強力に推進し、個々の具体的な歳出の検討を実施しながら、収支バランスの正常化を計画期間よりも短縮することに努めます。